

統計調査ニュース

令和4年(2022年)11月

No.432



広がりを見せる地方のデータ利活用(EBPM)の取組

統計データ利活用センター長 田中 久睦

統計の日となる10月18日、「第7回 地方公共団体における統計データ利活用表彰」の受賞団体を決定、公表いたしました。

「統計データ利活用表彰」は、客観的な統計データに基づく確かつ効率的な行政運営を促進する観点から、統計データを利活用した優れた取組を進める地方公共団体に対する表彰を行うものとして、平成28年度から実施しており、今年度で7回目を迎えました。本事業に対しては、これまでも多くの地方公共団体の皆様に御協力をいただいております。今年度は、全国から47事例という多数の御応募をいただきました。内容としても、行政施策の立案や行政サービス改善、人材育成の取組など多岐にわたるものとなっております。

審査の結果選ばれた、総務大臣賞、統計局長賞及び特別賞は次のとおりです。

【総務大臣賞】

兵庫県神戸市「データ分析をDIY～神戸データラウンジ～」

【統計局長賞】

岐阜県関市「ビッグデータを使用した効果的な自治体データベースの作成と多事業展開」

【特別賞】

東京都港区「新型コロナウイルス感染症による港区在住者、訪問者、事業所の動向と都市機能への影響の実態に関する研究——多様なデータの活用による動態の最新動向へのアプローチ」

和歌山県「和歌山県における空き家分布の推定」

長崎県「長崎県移動理由アンケート調査事業」

今年度の受賞取組の特徴として、単一部署での取組ではなく、横の連携が出てきていると感じます。バラバラのデータを一つにして、多部署で有効に利用しようとする動きが見て取れます。これは、EBPM(Evidence Based Policy Making、証拠に基づく政策立案)が、広く浸透してきていることを示しているのではないのでしょうか。統計データ利活用センターが発足して5年になろうとしています。当初からEBPMの推進・支援を進めてまいりました。少しでもこの広がりや寄与しているのであれば、我々にとっても大きな励みになります(同時に、これまで和歌山の地で尽力されてきた方々に感謝いたします)。

また、応募取組のレベルも大変高かったと感じています。今回は、たまたま受賞を逃しましたが、受賞レベルにある取組もたくさんありました。これらの応募いただいた取組は、「統計データ利活用事例集」として取りまとめますので、Data StaRt(データ・スタート：地方公共団体のためのデータ利活用支援サイト)を通じて、皆様に紹介していきたいと考えています。こちらも是非御覧いただき、政策立案などの参考にしていただきたいと思います。

政府統計データは、多くの皆様の御理解と御協力によって作成される貴重な社会の情報基盤です。統計データ利活用センターは、これからもより多くの皆様と統計データ利活用を通じた連携を進め、社会経済の発展や地域課題の解決に貢献してまいります。引き続き、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

【Data StaRt ⇒ <https://www.stat.go.jp/dstart/>】

目次

広がりを見せる地方のデータ利活用(EBPM)の取組	1	令和4年度統計研修受講記	
令和3年社会生活基本調査		／「令和4年秋の叙勲」	7
生活時間及び生活行動に関する結果の概要	2	「2022年度 統計関連学会連合大会」等に参加して	8
第70回統計グラフ全国コンクール入賞作品決定	4	とうけい通信 ㊹	9
統計研修生募集の御案内			
— 令和4年度第4四半期(令和5年1～3月) —	6		

令和3年社会生活基本調査 生活時間及び生活行動に関する結果の概要

社会生活基本調査は、1日の生活時間の配分及び1年間の自由時間における主な生活行動について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにするための基礎資料を得ることを目的としています。この度、令和3年社会生活基本調査 生活時間及び生活行動に関する結果を令和4年8月31日に公表しましたので、その概要を紹介します。

【1日の生活時間の配分】

1 テレワークをしていた日の生活時間

テレワーク（在宅勤務）をしていた人は、していない人（テレワーク以外の人）に比べて、睡眠、趣味・娯楽などの時間が長く、通勤・通学、身の回りの用事などの時間が短くなっています。

また、テレワークにより通勤時間が非常に短くなっている一方で、25～34歳では睡眠、趣味・娯楽、35～44歳では育児、45～54歳では睡眠、食事の時間がそれぞれ長くなっています。（表1）

表1 年齢階級、テレワークの実施の有無別生活時間（2021年）－平日、有業者

（時間:分）

	総数		うち25～34歳		うち35～44歳		うち45～54歳	
	テレワーク （在宅勤務）	テレワーク 以外	テレワーク （在宅勤務）	テレワーク 以外	テレワーク （在宅勤務）	テレワーク 以外	テレワーク （在宅勤務）	テレワーク 以外
睡眠	7.32	7.14	8.06	7.25	7.18	7.17	7.16	6.59
身の回りの用事	1.09	1.19	0.56	1.13	1.07	1.18	1.17	1.20
食事	1.35	1.26	1.30	1.15	1.29	1.18	1.40	1.24
通勤・通学	0.04	1.07	0.03	1.15	0.05	1.08	0.05	1.08
仕事	8.37	8.24	8.59	9.06	8.50	8.50	8.42	8.43
学業	0.02	0.05	0.02	0.02	0.00	0.03	0.03	0.02
家事	0.51	0.52	0.36	0.27	0.56	0.57	1.08	1.06
介護・看護	0.02	0.01	0.01	0.00	0.02	0.01	0.03	0.01
育児	0.17	0.07	0.13	0.15	0.41	0.18	0.09	0.04
買い物	0.09	0.10	0.10	0.06	0.07	0.08	0.08	0.11
移動 ¹⁾	0.10	0.09	0.05	0.08	0.11	0.09	0.09	0.09
テレビ ²⁾	0.58	1.06	0.22	0.28	0.37	0.39	1.10	1.03
休養・くつろぎ	1.30	1.22	1.30	1.31	1.31	1.21	1.24	1.21
学習・自己啓発 ³⁾	0.10	0.04	0.15	0.04	0.10	0.03	0.06	0.03
趣味・娯楽	0.35	0.19	1.00	0.32	0.35	0.18	0.23	0.13
スポーツ	0.09	0.04	0.06	0.03	0.08	0.03	0.09	0.04
ボランティア ⁴⁾	0.00	0.01	-	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00
交際・付き合い	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.01	0.03
受診・療養	0.02	0.02	0.01	0.01	0.04	0.01	0.01	0.01
その他	0.05	0.05	0.02	0.05	0.06	0.04	0.05	0.05

1) 移動（通勤・通学を除く）

2) テレビ・ラジオ・新聞・雑誌

3) 学習・自己啓発・訓練（学業以外）

4) ボランティア活動・社会参加活動

2 家事関連時間

6歳未満の子供がいる世帯について、夫と妻の家事関連時間をみると、夫は1時間54分、妻は7時間28分となっており、2016年と比べると夫は31分の増加、妻は6分の減少となり、夫婦間の差は縮小していますが依然として一定時間存在しています。（表2）

表2 6歳未満の子供を持つ夫・妻の家事関連時間の推移（2001年～2021年）
一週全体平均、夫婦と子供の世帯

（時間:分）

	夫					妻				
	2001年	2006年	2011年	2016年	2021年	2001年	2006年	2011年	2016年	2021年
家事関連	0.48	1.00	1.07	1.23	1.54	7.41	7.27	7.41	7.34	7.28
家事	0.07	0.10	0.12	0.17	0.30	3.53	3.35	3.35	3.07	2.58
介護・看護	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.03	0.03	0.03	0.06	0.03
育児	0.25	0.33	0.39	0.49	1.05	3.03	3.09	3.22	3.45	3.54
買い物	0.15	0.16	0.16	0.16	0.18	0.42	0.40	0.41	0.36	0.33

3 地域別にみた通勤・通学時間

平日に通勤・通学を行った人について、通勤・通学時間（行動者平均時間）を都道府県別にみると、神奈川県が1時間40分と最も長く、次いで千葉県及び東京都などとなっており、関東地方で長くなっています。一方、山形県及び宮崎県が56分と最も短く、次いで愛媛県、鳥取県などとなっています。（表3）

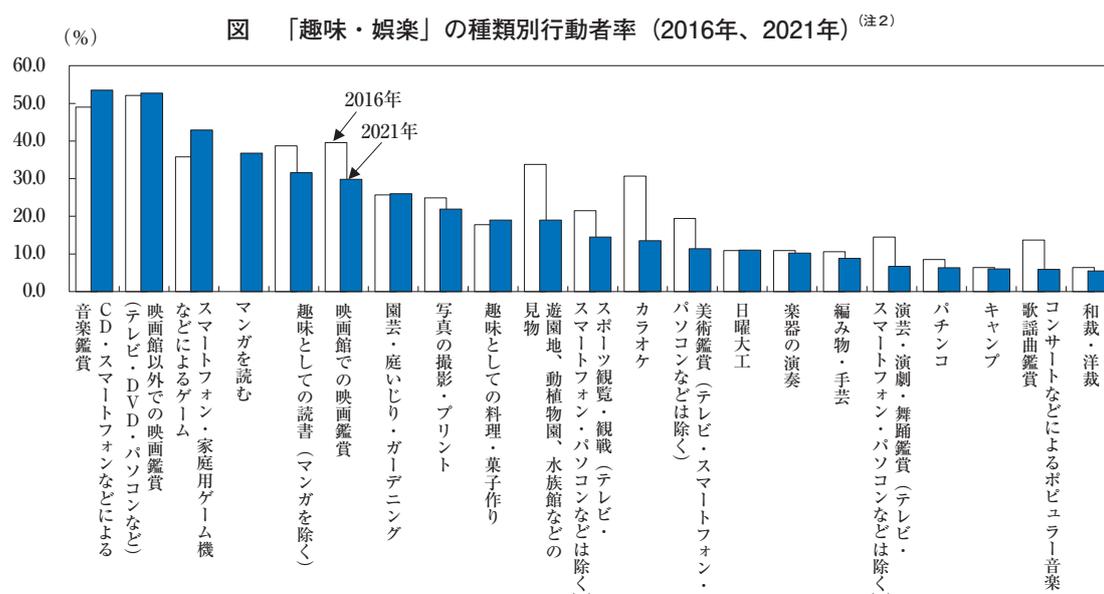
表3 都道府県別通勤・通学の行動者平均時間（2021年）－平日

順位	都道府県	通勤・通学時間 (時間:分)
	全国	1.19
1	神奈川県	1.40
2	千葉県	1.35
2	東京都	1.35
4	埼玉県	1.34
5	奈良県	1.28
6	大阪府	1.27
7	兵庫県	1.24
8	京都府	1.21
9	茨城県	1.18
9	愛知県	1.18
41	秋田県	1.00
41	新潟県	1.00
41	石川県	1.00
44	鳥取県	0.59
45	愛媛県	0.57
46	山形県	0.56
46	宮崎県	0.56

【1年間の主な生活行動】

4 趣味・娯楽の生活行動

「趣味・娯楽」の種類別行動者率^(注1)を2016年と比べると、「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」、「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」などは上昇した一方で、「カラオケ」及び「遊園地、動植物園、水族館などの見物」は大幅な低下となっています。（図）



(注1) 10歳以上人口に占める過去1年間(2020年10月20日～2021年10月19日)に該当する種類の活動を行った人の割合

(注2) 「趣味としての読書(マンガを除く)」は、2016年は「趣味としての読書」としてマンガを含めて把握しており、マンガを除いている2021年は定義の変更があるため比較には注意を要します。

また、「マンガを読む」を2021年に固定項目に追加しています。

「令和3年社会生活基本調査」の詳しい結果については、次のURLを御参照ください。

<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/index.html>

第70回統計グラフ全国コンクール入賞作品決定

総務大臣賞は、新潟県見附市立名木野小学校4年 大久保 仁湖さんの作品

見つけて！命をつなぐバトン 自分でできるAEDきゅうじょたい

【統計グラフ全国コンクール】

統計グラフ全国コンクールは、国民の皆さんに、統計グラフの作成を通じて、日常生活の中で統計を利用することの有用性を知っていただくとともに、統計調査への理解を深めていただくことを目的に、昭和28年から実施されています。（公財）統計情報研究開発センターが主催する第70回統計グラフ全国コンクールは、総務省、文部科学省等の関係機関が後援及び協賛し、実施されました。

【審査経過】

第70回目を迎える本年度は、全6部門に、全国の

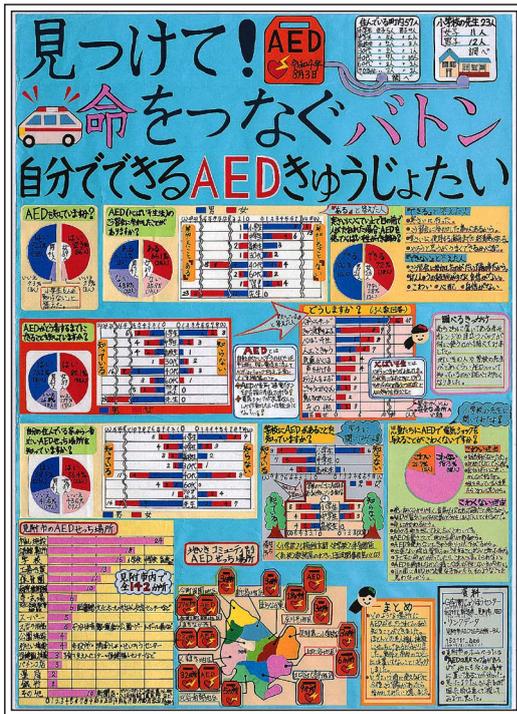
小・中学生から一般の方々まで、計20,343作品に及ぶ多くの応募があり、各都道府県の統計グラフコンクールを兼ねた第1次審査、総務省職員等による第2次審査を経た後、統計グラフ全国コンクール最終審査会（審査委員長：渡辺美智子立正大学データサイエンス学部教授）において、部門別に特選6作品が決定されました。

さらに、各部の特選作品から、「総務大臣賞」、「文部科学大臣賞」、「日本統計学会会長賞」、「日本品質管理学会賞」、「金丸三郎賞」及び「石橋信夫賞」を決定しました。

令和4年度 総務大臣賞及び文部科学大臣賞

【総務大臣賞】

見つけて！命をつなぐバトン
自分でできるAEDきゅうじょたい
〔第2部（小学校3・4年生の児童）特選作品〕



新潟県見附市立名木野小学校4年
大久保 仁湖さん

【文部科学大臣賞】

睡眠時間、見直してみませんか？
〔パソコン統計グラフの部（小学校の児童以上）特選作品〕



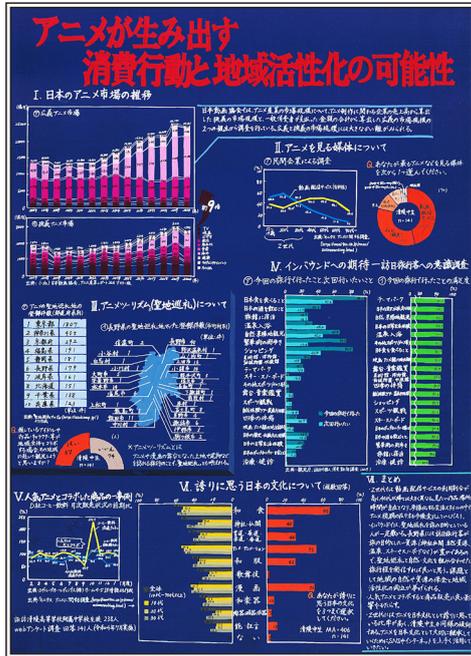
静岡県小山町立北郷中学校1年
天野 克哉さん

特別賞受賞作品

【日本統計学会会長賞】

アニメが生み出す消費行動と地域活性化の可能性

〔第4部(中学校の生徒)特選作品〕

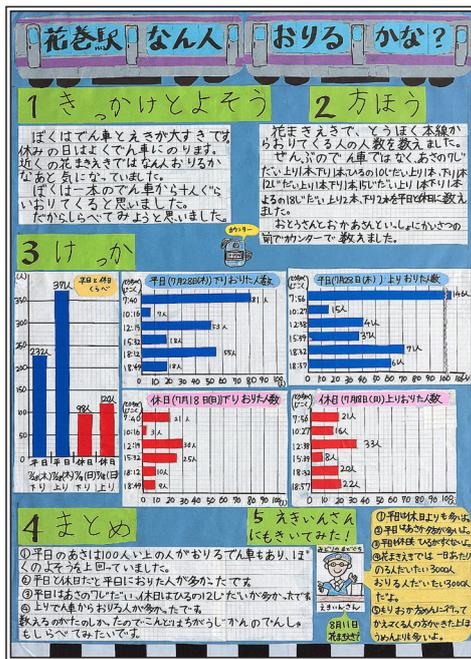


長野県諏訪清陵高等学校附属中学校3年
小濱 梓咲さん

【金丸三郎賞】

花巻駅 なん人 おりるかな？

〔第1部(小学校1・2年生の児童)特選作品〕

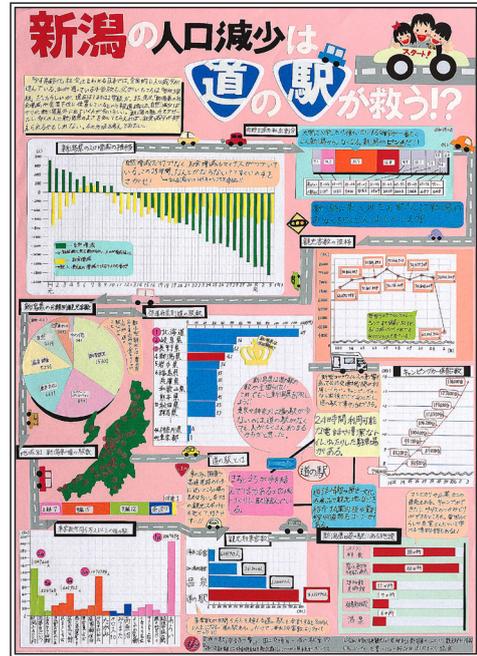


岩手県花巻市立若葉小学校2年
安部 哲司さん

【日本品質管理学会賞】

新潟の人口減少は道の駅が救う!?

〔第3部(小学校5・6年生の児童)特選作品〕

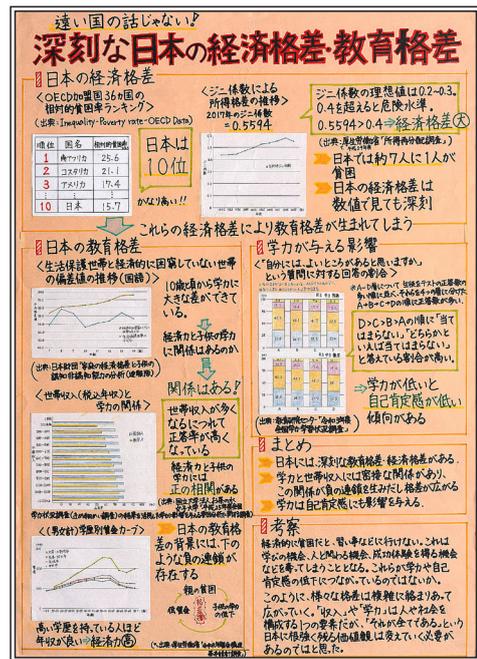


新潟県田上町立羽生田小学校6年
畠山 紗来さん

【石橋信夫賞】

遠い国の話じゃない! 深刻な日本の経済格差・教育格差

〔第5部(高等学校以上の生徒、学生及び一般)特選作品〕



兵庫県神戸大学附属中等教育学校4年
横山 史織さん

▶▶▶ 統計研修生募集の御案内 ◀◀◀

— 令和4年度第4四半期(令和5年1～3月)—

総務省統計研究研修所では、国・地方公共団体の職員（教員を含む。）及び政府関係機関の職員に対し、統計リテラシーの向上などを目的として、様々な研修を実施しています。

令和4年度第4四半期（令和5年1～3月）に実施する研修は下記のとおりです。研修内容の詳細や募集締切りについては、府省等、都道府県及び市区町村に別途送付する「統計研修の募集要項」又はポータルサイト「統計研修ひろば」を御覧ください。

令和4年度第4四半期に実施する研修について

研修課程名	主な対象者	開催時期	実施方法	研修概要
統計データアナリスト研修（上級）				
統計データアナリスト研修	国家公務員のうち、 ①統計データアナリスト認定を目指す者 ②統計データアナリスト補認定を受けている者	2月下旬～ 3月上旬の うち5日間	集合/ ライブ	上級研修として、統計の根拠法令、品質管理、統計精度の担保など管理者に必要な知識を学ぶ
統計実務職員（統計データアナリスト補）研修（中級）				
統計利用の基本	①初級研修を受講済みの者 ②国家公務員のうち、統計データアナリスト、統計データアナリスト補認定を目指す者	2月上旬～ 3月中旬の うち4週間	オン ライン	中級研修として、既存のデータやグラフから要因、結果、状況を読み解く手法を学ぶ
調査設計の基本				中級研修として、統計調査の企画立案、調査設計の流れ、根拠法令を学ぶ
統計分析の基本				中級研修として、自身でデータを分析、考察する際に必要な統計的分析手法を学ぶ
統計取扱業務担当職員向け研修（初級）				
統計担当者向け入門	①「初めて学ぶ統計」の受講者 ②新規採用職員、統計初学者	2月上旬～ 3月中旬の うち4週間	オン ライン	統計行政関係部署に新たに就いた者にとって必要な、統計データの入手、グラフによる可視化、利用の仕方
初めて学ぶ統計	新規採用職員、統計初学者			これから統計利用を始める者にとって必要な、基礎的な統計リテラシー、統計制度を学ぶ
データ利活用コース				
政策立案と統計	①EBPMに興味のある者 ②施策立案部門の担当者	2月上旬～ 3月中旬の うち4週間	オン ライン	政策立案と統計の関連性を学び、PDCAサイクルにおける統計の重要性を認識するとともに、実務における統計データのいかし方を学ぶ
政策評価と統計				PDCAサイクルにおける政策の事後的評価の観点から、統計の活用方法を学び、またアンケートによる効果測定の際に必要な基礎知識を習得する
ビッグデータ利活用 ー基礎から応用までー	ビッグデータの利活用に興味のある者			データの分析手法、可視化について実例を学び、ビッグデータからデータ分析する意義、目的について習得する
データサイエンス入門	データサイエンス初学者			これから統計利用を始める者にとって必要な、データの活用のされ方、データの見方など、データの活用方法について学ぶ
データサイエンス演習	データサイエンス入門の受講者・修了者			入手したデータの分析演習などを通し、得られたデータからどのようなことが分かるのかを実践的に学ぶ
誰でも使える 統計オープンデータ	オープンデータをこれから利用する者			e-Statの使い方など、公的統計データの入手の仕方からオープンデータの活用方法を学ぶ
都道府県職員・教育関係者向けコース				
統計データアナライズ セミナー	都道府県統計主管課職員のうち、統計的分析に興味のある者	1月下旬 【1日】	ライブ	統計データを用いた分析業務に必要な知識を、グループワークを通して学ぶ
人口・経済統計コース				
人口推計	人口統計を用いた推計、分析に興味のある者	1月23日～27日 【5日間】	集合	人口統計のデータを活用する際に必要な、人口問題の現状や人口推計の理論を学ぶ
地域分析コース				
GISによる統計活用	GISを用いた分析に興味のある者	2月7日～8日 【2日間】	集合	各種統計データをGISやRESASを用い、数字上のデータを地図上に可視化することで現状と課題を把握する手法を学ぶ
マイクロデータコース				
マイクロデータ分析 ーRによる統計解析ー	①Rを用いた分析を行う者 ②マイクロデータ分析のためのプログラミングの受講者	2月14日～17日 【4日間】	集合	統計解析ソフトRのより高度で実践的な分析手法をマイクロデータを用いた演習を通して学ぶ

※ 各研修の日程、内容等は変更になる場合があります。
新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、集合研修を中止又はライブ配信形式に変更する場合があります。

【統計研修ポータルサイト（統計研修ひろば）】

<https://t-kensyu.sbj.nstac.hq.admix.go.jp>

※閲覧には、政府共通ネットワーク又は総合行政ネットワーク（LGWAN）に接続する必要があります。

問合せ先 総務省 統計研究研修所 研修企画課
TEL 042-320-5874 E-mail o-kenkikaku@soumu.go.jp

令和4年度統計研修受講記

令和4年度「国民・県民経済計算」を受講して

大分県企画振興部統計調査課 野地 加奈絵

私は、本年度から統計調査課に配属されました。統計に関する業務は初めてで、知識が乏しい状態でしたので、初めは非常に不安でした。本や資料などで学ぶだけでは物足りず、まずは「統計担当者向け入門」及び「初めて学ぶ統計」をオンラインで受講しました。そこで基礎的な知識を習得した上で、更に専門的な内容を学びたいと考え受講したのが本研修です。

「国民・県民経済計算の意義・役割」では、GDPと県民経済計算の基礎的な知識を学びました。GDPは知っていましたが、その推計方法はよく理解できていなかったため、今回学ぶことができて良かったです。また、県民経済計算は私の担当業務でもあるのですが、正直配属されるまで全く知識がありませんでした。今回基礎から学び、その歴史まで知ることができたため、今後の業務の参考になりました。

「国民経済計算の概要」では、主にGDPの概要のほか、産業連関表や国際収支統計などについて学びました。日本のみならず海外の統計の動きなどについても知ることができたため、興味深かったです。本講義では数式やグラフが多く登場したため、それらが苦手な私は講義について行けるか心配でしたが、丁寧に教えていただいたので、なんとかついて行くことができました。また、実際のデータを使用しながらの講義だったため、内容をイメージしやすかったです。

「県民経済計算の概要」では、用語の解説や推計のノ

ウハウなど、県民経済計算に関する知識全般について深く学ぶことができました。さらに、RESASやe-Statなど、今後の業務に役立つサイトを操作しながら演習することができました。配属されるまでは各サイトの存在を知らなかったのですが、実際に使用してみて、県の他所属の方にも是非活用していただきたいと感じたため、全庁向けに、業務に役立つ統計関係のサイトについてまとめた資料を作成しました。

「国民・県民経済計算を用いた経済モデル分析」は、産業連関表や国民・県民経済計算、マクロ経済モデルについての演習が充実していました。難しいと感じる問題もありましたが、しっかりと解説していただいたので、理解することができました。講義の配信を観る・聴くだけでなく、自ら考える・テキストに答えを書き込むという作業を行うことで、より知識が身についたのではないかと感じています。

最後に、5日間にわたりオンライン・対面両方の環境を整備いただいた統計研究研修所の皆様、並びに、丁寧に分かりやすい講義をしていただいた4名の先生方、ありがとうございました。一つのテーマについて5日間みっちり学ぶことができる機会はなかなかないと思うので、良い経験になりました。今回学んだ知識を業務にいかすとともに、別の研修にも参加させていただき、より統計に関する知識を深めていきたいです!!

「令和4年秋の叙勲」

政府は、11月3日に、「秋の叙勲」の受章者を発令しました。

総務省における統計関係では、永年にわたり国勢調査を始め各種統計調査に調査員として従事し、調査実施に多大な貢献をした次の方々が、勲章の榮譽に浴されました。栄えある受章にお祝い申し上げます。

【勲章受章者】

○瑞宝双光章

吉川 一成 (北海道)

○瑞宝単光章

兼近 勇 (北海道)
重永 京子 (北海道)
諸橋 純子 (北海道)
小倉 尚志 (青森県)
須藤 則雄 (青森県)
溝江 肇子 (青森県)
千葉 敏道 (岩手県)
岩岡 新一 (岩手県)
昆 松雄 (岩手県)
岡本 良一 (宮城県)
鹿又 日出 (宮城県)
菅井 貞夫 (山形県)
高野 金助 (福島県)
佐藤 剛 (福島県)
内田 健一 (茨城県)
大久保 京子 (茨城県)
武藤 チイ (栃木県)

※敬称略

山崎 洋子 (栃木県)
大日向 けい子 (埼玉県)
小黑 環 (埼玉県)
窪 和子 (埼玉県)
澤 春代 (埼玉県)
春名 マチ子 (埼玉県)
茂木 カヲル (埼玉県)
金田 重興 (千葉県)
網仲 惠津美 (千葉県)
江波戸 吾朗 (千葉県)
紙透 純子 (千葉県)
吉田 途王 (千葉県)
磯部 ひい子 (東京都)
木村 香代子 (東京都)
藤本 俊子 (東京都)
桑古 三郎 (東京都)
大木 トキ子 (神奈川県)
川喜田 早苗 (神奈川県)
佐久間 敬子 (神奈川県)
大門 幸子 (神奈川県)
仲田 博子 (神奈川県)
阿部 清子 (新潟県)

(栃木県)
(埼玉県)
(埼玉県)
(埼玉県)
(埼玉県)
(埼玉県)
(埼玉県)
(千葉県)
(千葉県)
(千葉県)
(千葉県)
(千葉県)
(東京都)
(東京都)
(東京都)
(東京都)
(神奈川県)
(神奈川県)
(神奈川県)
(神奈川県)
(神奈川県)
(新潟県)

大森 美代 (新潟県)
吹田 歌代子 (富山県)
八杉 金四郎 (福井県)
安藤 晶子 (岐阜県)
中村 禮子 (静岡県)
岩佐 充子 (愛知県)
近藤 多美 (愛知県)
松田 幸子 (愛知県)
宮向 昌子 (愛知県)
三輪 富代 (愛知県)
山岡 孝夫 (三重県)
金谷 洋子 (滋賀県)
稲垣 セツ子 (兵庫県)
廣澤 大祐 (岡山県)
中務 裕江 (岡山県)
土手 和子 (広島県)
住吉 和子 (広島県)
永井 多美子 (徳島県)
西澤 記代 (愛媛県)
山並 とみ代 (福岡県)
西野 和子 (福岡県)
佐藤 緑 (大分県)

「2022年度 統計関連学会連合大会」等に参加して

統計局、政策統括官（統計制度担当）、統計研究研修所及び独立行政法人統計センターは、統計技術の研究その他統計の改善発達に資することなどを目的として、統計関連の6学会に団体会員として加盟し、毎年、各学会が主催するいくつかの大会において、研究成果を発表し、情報発信を行っています。

ここでは、9月に「2022年度統計関連学会連合大会」及び「経済統計学会第66回全国研究大会」が開催されましたので、その概要を紹介します。

I 「2022年度 統計関連学会連合大会」

9月4日（日）から9月8日（木）にかけて、2022年度統計関連学会連合大会が成蹊大学（東京都武蔵野市）において、現地開催とオンライン開催の併用（ハイブリッド開催）により開催されました。

本大会は、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の6学会の主催により開催されています。

今年度の大会の構成は、以下のとおりです。

- チュートリアルセッション、○市民講演会、
- プレナリーセッション、○コンペティション講演、
- 特別企画セッション、○企画セッション、
- 一般講演

統計局等からは、以下のテーマについて、発表講演を行いました。（敬称略）

【9月6日（火）】

11:20 ~ 11:40 一般講演【公的・民間統計(1)】

- 「合成データの作成方法の有効性に関する定量的な評価の試み」
- 事業所・企業系のマイクロデータを用いて -
横溝 秀始（統計局統計データ活用センター）
伊藤 伸介（中央大学）

14:00 ~ 14:20 一般講演【公的・民間統計(2)】

- 「人流メッシュ統計データを使用した月次宿泊旅行統計調査の推計について」
松井 伸司（政策統括官（統計制度担当））
佐藤 彰洋（横浜市立大学）

15:30 ~ 15:50 一般講演【公的・民間統計(3)】

- 「ビッグデータの更なる活用の方向性～政策の質の向上を目指して～について」
前原 庸司（前政策統括官（統計制度担当））

15:50 ~ 16:10 一般講演【公的・民間統計(3)】

- 「統計データの利活用推進に向けた統計センターの取組み」
- 統計的開示抑制のための標準的なチェック内容 -
阿部 穂日（(独)統計センター）
南 和宏（統計数理研究所、(独)統計センター）

【9月8日（木）】

13:00 ~ 15:00 企画セッション

【「統計改革」の新地平】

- 「事業所母集団データベースの整備について」
星野 健（(独)統計センター）
- 「新型コロナウイルス感染症流行下における令和2年国勢調査の実施とその教訓」
永井 恵子（統計局国勢統計課）

II 「経済統計学会 第66回全国研究大会」

9月6日（火）から9月7日（水）にかけて、経済統計学会第66回全国研究大会がオンライン開催されました。

今年度の大会の構成は、以下のとおりです。

- 企画セッション、○一般報告、○特別講演

統計局等からは、以下のテーマについて、発表講演を行いました。（敬称略）

【9月6日（火）】

9:00 ~ 10:30 一般報告

【マイクロデータの作成・分析】

- 「事業所・企業系の統計調査における合成データの展開可能性」
- 経済センサスを例に -
横溝 秀始（統計局統計データ活用センター）
伊藤 伸介（中央大学）

14:20 ~ 17:30 企画セッション

【労働・生活・福祉問題と統計】

- 「社会生活基本調査から得られるマクロ的アプローチによる労働時間の把握に関する研究」
長尾 伸一（統計研究研修所）

とうけい通信②

EBPM研究会で新しいふじみ野市のみらいづくりを進めます

ふじみ野市総合政策部情報・統計課

1.ふじみ野市の紹介

面積 14.64km²
 人口 114,251人
 世帯数 53,873世帯
 (令和4年9月1日現在)



ふじみ野市の位置

出典：住民基本台帳

ふじみ野市は、平成17(2005)年10月1日に旧上福岡市と旧大井町が合併して誕生しました。埼玉県の南西部に位置し、北部市境に沿って、江戸時代から昭和初期にかけて江戸とを結んで栄えた新河岸川舟運の水路・新河岸川が南北に流れています。かつては農村地帯でしたが、東洋一といわれた霞ヶ丘団地と上野台団地の建設や誘致による企業の進出を契機に、昭和30年代半ばから宅地化が進み、人口が急増しました。

平成5(1993)年には東武東上線急行停車駅であるふじみ野駅の開業により、住宅整備が進行し人口も増加。また、同線新上福岡駅西口では市街地再開発事業により商業施設や高層住宅が整備され、市の玄関口としてふさわしい街並みが形成されています。平成20(2008)年6月にはこれまでの地下鉄有楽町線に加え、地下鉄副都心線と東武東上線の相互乗り入れが実現し、都心へのアクセスも一層良くなりました。都心から30キロメートルの首都圏に位置しながらも、新河岸川や雑木林など豊かな自然が残り、また、交通の利便性をいかした商品流通業や都市近郊農業などが盛んなまちとして発展を続けています。



ふじみ野市PR大使「ふじみん」

2.EBPM研究会

ふじみ野市では、平成30年度より「ふじみ野市将来構想from 2018 to 2030」を策定し、「人がつながる豊かで住み続けたいまちふじみ野」を将来像とするまちづくりを進めてきました。その中の一つとして、合併後、スピード感と実行力が求められる行政経営を担う人材を育成する取組として「EBPM研究会」があります。一つの政策が地域経済へ与えるインパクトやソーシャルリターンについて、統計データを用いた調査研究を行い、併せて今後のまちづくりにいかすための政策効果検証と政策提言に関するスキルを習得することにより、市の政策に対する市民等への説明責任を果たすことで、信頼される行政を目指し、市民福祉の向上を図ることを目的として、令和元年度にEBPM研究会を立ち上げました。

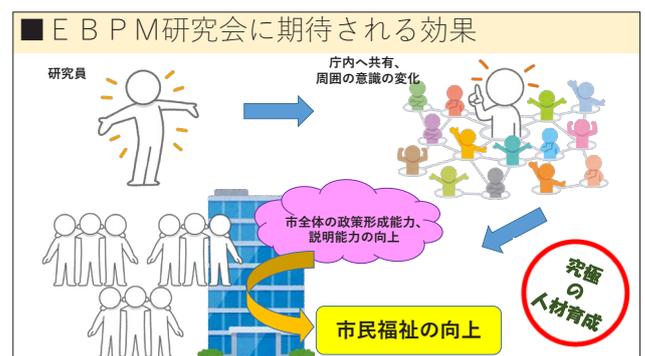
第1期は令和元年度と令和2年度の2か年で当市の重要施策の一つである「子育て政策」をテーマとして、各部から選出された職員が研究員としてA、B、Cの三つのグループに分かれ政策を検討し、当市の令和3年度の3か年実施計画に位置づけることを最終目標にしました。

また、研究員が実践的な政策立案を通じて、政策の現状把握、課題分析、課題解決に向けたエビデンスの収集能力を身につけるにとどまらず、政策立案能力や立案した政策を実現させるための説得力のある提案能力を身につけることにより、その数々のスキルを各自の所属で共有することで周囲の職員全体の意識改革を促し、好循環を生み出すということを目指しました。

研究会で提案された政策の一例では、国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」や厚生労働省委託調査「平成28年度仕事と家庭の両立に関する実態把握のための調査研究事業報告書」により女性就業率の現状を把握し、当市の市民アンケート調査から就業に関するニーズとみなし経済効果の分析を行い、既存の保育制度やRESASの昼間人口・夜間人口分析により、子育て世代の就労支援の方策の検討を行いました。政策立案では、ロジックツリーにより母親の就労支援の手段を考察し、テレワークを活用して子育て中の母親の就労支援に着目しました。自治体のテレワーク普及率や先進自治体への照会、民間事業者のヒアリングを検証し、テレワークを活用した子育てする母親の就労支援による政策効果をロジックモデルで示し、想定される市内の事業実施場所や導入・維持管理経費、将来的な横展開事業をまとめました。



2年間の活動を経て「母親を対象としたテレワーク環境の整備」、「子ども医療費助成制度の拡充」、「歯の健康プロジェクト」の三つの政策を市長へ提案し、施策所管部署が引継ぎ、実施に向けて検討しました。その結果「歯の健康プロジェクト」は3か年実施計画への位置づけを経て令和4年度の予算に措置されました。EBPM研究会の取組は第6回地方公共団体における統計データ利活用表彰で特別賞を受賞し、令和3年度以降も第2期、第3期と続いています。



最近の数字

		人口		労働・賃金			産業		家計(二人以上の世帯)		物価	
		総人口 (推計による人口)		就業者数	完全失業率 (季節調整値)	現金給与総額 (規模5人以上)	鉱工業 生産指数 (季節調整値)	サービス産業 の月間売上高	1世帯当たり 消費支出	1世帯当たり 可処分所得 (うち勤労者世帯)	消費者物価指数	
		千人(Pは万人)									万人	%
実数	2022. 5	125,072	6730	2.6	277,026	88.0	30.5	287,687	359,511	101.8	101.9	
	6	P 12493	6759	2.6	451,763	96.1	P 32.0	276,885	736,070	101.8	101.8	
	7	P 12484	6755	2.6	376,028	96.9	P 31.4	285,313	527,343	102.3	102.3	
	8	P 12478	6751	2.5	279,346	100.2	P 30.9	289,974	457,774	102.7	102.7	
	9	P 12475	6766	2.6	P 275,787	P 98.6	...	280,999	403,991	103.1	102.9	
10	P 12483	P 103.4	
前年同月比	2022. 5	-	0.3	* 0.1	1.0	* -7.5	8.3	-0.5	-5.1	2.5	2.4	
	6	-	0.3	* 0.0	2.0	* 9.2	P 6.8	3.5	-1.2	2.4	2.3	
	7	-	-0.0	* 0.0	1.3	* 0.8	P 5.4	3.4	-5.0	2.6	2.5	
	8	-	0.2	* -0.1	1.7	* 3.4	P 7.2	5.1	-2.2	3.0	2.9	
	9	-	0.6	* 0.1	P 2.1	* P -1.6	-	2.3	0.1	3.0	2.8	

(注) P:速報値 * :対前月
家計(二人以上の世帯)の前年同月比は実質値

掲示板 統計関係の主要日程 (2022年11月~12月)

《会議及び研修関係等》

時期	概要	時期	概要
11月15日	地域分析コース「地域分析」開講【集合】(～18日)	12月5日	人口・経済統計コース「経済予測」開講【集合・ライブ配信】(～9日)
		7日	第70回全国統計大会、統計150年記念式典

《調査結果の公表関係》

時期	概要	時期	概要
11月4日	小売物価統計調査(ガソリン)2022年10月分公表	12月22日	住民基本台帳人口移動報告(2022年11月分)公表
8日	家計調査(家計収支編:2022年9月分及び2022年7～9月期平均)公表	23日	消費者物価指数(全国:2022年11月分)公表
〃	家計消費状況調査(支出関連項目:2022年9月分及び2022年7～9月期平均 ICT関連項目:2022年7～9月期平均)公表	〃	小売物価統計調査(全国:2022年11月分)公表
〃	消費動向指数(CTI)2022年9月分及び2022年7～9月期平均公表	27日	労働力調査(基本集計)2022年11月分公表
〃	労働力調査(詳細集計)2022年7～9月期平均公表	28日	サービス産業動向調査(2022年10月分速報及び2022年7月分確報)公表
16日	統計トピックス 統計からみたサッカーの状況-「2022FIFA ワールドカップ」にちなんで-(社会生活基本調査の結果から)公表	31日	統計トピックス 「卯年生まれ」と「新成人」の人口-令和5年新年にちなんで-公表
18日	消費者物価指数(全国:2022年10月分)公表	月内	令和2年国勢調査 抽出詳細集計公表
〃	小売物価統計調査(全国:2022年10月分)公表	〃	令和3年社会生活基本調査 詳細行動分類による生活時間に関する結果公表
21日	人口推計(2022年6月1日現在確定値及び2022年11月1日現在概算値)公表	〃	令和3年経済センサス-活動調査 産業別集計「鉱業、採石業、砂利採取業」、「製造業」公表
22日	第72回 日本統計年鑑(令和5年)刊行	〃	令和3年経済センサス-活動調査 産業横断的集計「法人数、建設・サービス収入の内訳(一部の産業)」公表
25日	消費者物価指数(東京都区部:2022年11月分(中旬速報値))公表		
〃	小売物価統計調査(東京都区部:2022年11月分)公表		
29日	労働力調査(基本集計)2022年10月分公表		
〃	住民基本台帳人口移動報告(2022年10月分)公表		
30日	サービス産業動向調査(2022年9月分速報及び2022年7～9月期速報並びに2022年6月分確報及び2022年4～6月期確報)公表		
12月2日	小売物価統計調査(ガソリン)2022年11月分公表		
6日	家計調査(家計収支編:2022年10月分)公表		
〃	家計消費状況調査(支出関連項目:2022年10月分)公表		
〃	消費動向指数(CTI)2022年10月分公表		
13日	令和2年国勢調査に関する地域メッシュ統計(人口移動、就業状態等及び従業地・通学地に関する編成)公表		
中旬	2022年科学技術研究調査結果公表		
20日	人口推計(2022年7月1日現在確定値及び2022年12月1日現在概算値)公表		

編集発行 **総務省統計局**

〒162-8668 東京都新宿区若松町19-1

総務省統計局 統計情報利用推進課 情報提供第一係

TEL 03-5273-1160 E-mail y-teikyoul@soumu.go.jp

ホームページ <https://www.stat.go.jp/>

御意見・御感想をお待ちしております。